

### 【現状と課題】

- 心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するため、指導法を更に改善することが求められています。
- たくましい体や強い心を備えた児童生徒の育成を目指し、体力と運動や健康との関連を意識させ、自ら運動の場や機会を積極的に求めて、体力向上に継続して取り組む運動習慣を身に付けさせる必要があります。
- 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成に向けた、安全で効果的な教材・教具を含めた学校体育施設・設備の整備・充実に努める必要があります。
- 中学校で行われている運動部活動は、競技経験のない顧問が多く、部活動指導と授業準備等の時間の確保との両立が厳しい状況となっています。

### 【これからの施策の方向性】

- 生涯スポーツの素地となる学校体育では、運動の楽しさや喜びを味わおうとする自主的な態度や運動を合理的に実践するための技能や知識、それらを活用する思考力や判断力など、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成するため、学習過程の工夫や指導法の研究・実践など授業改善を推進します。
- 運動する子どもとそうでない子どもの二極化や戸外遊びの減少などに着目し、学校・家庭が連携し、児童生徒が運動・スポーツに親しむ機会を充実させ、体力向上を目指した運動の奨励や意識高揚を促す教材・教具等を活用し健康的なライフスタイルの確立を推進します。
- 体育施設の安全管理と老朽化した施設設備等の補修・整備を推進します。
- 顧問の負担軽減を図りつつ、生徒も専門的な指導が受けられるよう、運動部活動活性化事業を活用し、充実した部活動運営を推進します。

### 【主な取組】

- 体育・保健体育の授業力の向上のため、講師の招へいを伴う研究授業の積極的な推進や本市独自の研修会等の充実を図り、授業改善の推進に努めます。
- 各学校の児童生徒の体力に関する課題を把握し、運動・スポーツ活動の充実を図り、体力向上に取り組めます。
- 学校プール、遊具・体育施設、武道場、テニスコート、教材・教具等の補修及び年次的整備に努めます。
- 運動部活動活性化事業が円滑に推進されるように、進捗状況の把握や事業推進上の課題を取りまとめ、事業の活用に努めます。

### 【計画期間における成果指標】

指標名	指標の概要、算式等	参考値	現況値（R2）	目標値（R8）
①「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合の全国との比較	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 ※全国平均を100とした本市との差	小5：-0.2 中2：+2.0 (R1)	小5：±0 中2：+1 (H27～R1の平均値)	小5：+0.5 中2：+1.5
②全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力平均点の全国との比較	実施学年の体力合計点の平均値	小5：-1.5 中2：-1.8 (R1)	小5：-1.5 中2：-1.5 (H27～R1の平均値)	小5：±0 中2：±0

#### ①の指標を選んだ理由

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を向上させるため、事業の成果を表す指標として、全国体力・運動能力、運動習慣等調査で「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合の全国との比較を設定した。

#### ②の指標を選んだ理由

全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、全国の小学5年生、中学2年生を対象とした悉皆調査であり、体力の状況を比較できることから、事業の成果指標として、全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力平均点の全国との比較を設定した。

### 【体育の授業の様子】



### 【現状と課題】

- 社会環境や生活様式の変化に伴い、運動や食を含む生活習慣等に関する正しい知識の習得や指導方法の工夫が必要とされています。
- 第四次かごしま市食育推進計画が策定されたことに伴い、市民一人ひとりが「食」に関して信頼できる情報に基づく適切な判断を行う能力を身に付け、心身の健康を増進する健全な食生活を実践することが求められています。また、「食」について感謝の念や理解が深まるよう学校給食を中心とした食に関する指導の充実を図り、家庭や地域と一体となった取組の推進が必要となっています。

### 【これからの施策の方向性】

- 学校保健を充実させるための支援体制を整え、現代的な健康課題の解決や健康的なライフスタイルの確立に向けた支援など、学校・家庭・地域及び関係機関等の連携・協働を推進します。
- 新型コロナウイルス感染症をはじめとする様々な感染症や疾病等の発生及びまん延を予防するために、関係機関と連携した健康教育の充実を目指します。
- 心身ともに健全な子どもを育成するため、学校給食を中心とした食に関する指導の充実を図るとともに、学校の教育活動全体を通して取り組む食育を推進します。
- 学校での取組内容を積極的に発信するとともに、家庭・地域・関係機関等と連携し、児童生徒の健康で豊かな食生活と食育を推進します。

### 【主な取組】

- 現代的な健康課題を解決するため、学校における性に関する指導や外部講師を活用した薬物乱用防止教育など、専門家と連携した健康に関する指導を充実させます。
- 医師会、歯科医師会、薬剤師会、PTA連合会、保健所等と連携した協議会や研修会等を開催し、その充実を図ります。
- 学校での教育活動全体を通じた取組の充実を図り、食の重要性や心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化等への理解や習得に努めます。
- 栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域及び関係機関等の連携による食育の推進を図ります。
- 身近な農作物の栽培体験活動や料理教室など、児童生徒や保護者が参画する取組を推進します。

### 【計画期間における成果指標】

指標名	指標の概要、算式等	参考値	現況値（R2）	目標値（R8）
①むし歯のない生徒の割合（中1）	歯と口の健康に関する調査	59.3% （R1）	62.6%	70.0%
②学校給食への地場産物の活用率	給食用食材に県内産の食材（肉・野菜等）を使用する割合（重量ベース）	70.9% （R1）	63.8%	70.0%

#### ①の指標を選んだ理由

学齢期は乳歯が永久歯に生えかわる時期であり、歯科保健の取組は家庭や関係機関との連携が不可欠であることなどから、事業の成果を表す指標として、むし歯のない生徒の割合（中1）を設定した。

#### ②の指標を選んだ理由

「食」に対する感謝の心や食品を選択する能力、食文化等への理解や習得に努める必要があることから、事業の成果を表す指標として、学校給食への地場産物の活用率を設定した。

### 【食に関する指導の様子】



### 【現状と課題】

- 校内パトロールや入念な準備運動等のセーフコミュニティの取組を推進し、児童生徒自らが危険を予測・回避する能力や態度を育成するとともに、学校を取り巻く安全上の課題やその対策を検証し、学校安全計画等や取組を適宜検証・改善していくことが求められています。
- 近年、学校内外において児童生徒等が巻き込まれる事件・事故等が発生していることを踏まえ、各学校で実施している防犯教室や交通安全教室、避難訓練の見直し、通学路や校内等の危険箇所を示したマップの作成等を定期的に行い、安全指導の更なる推進が必要となっています。
- 安全管理と安全指導を効果的に推進していくための組織を学校の運営組織の中に位置付け、教職員の共通理解と役割分担を明確にするとともに、スクールガード・リーダー等の効果的な人材活用など、学校・家庭・地域及び関係機関等と情報を共有・活用できるネットワークの整備が重要となっています。

### 【これからの施策の方向性】

- 安全教育では、危険を予測・回避するための訓練や具体的場面を想定した安全学習、セーフコミュニティの考え方に基づいた取組を推進します。
- 安全管理では、教職員の危機管理意識を高め、事故が予測される要因等を除去するとともに、事故発生時に適切な安全措置ができるよう体制を確立し、児童生徒の安全確保に努めます。
- 学校の安全確保については、学校や地域の実情に応じて、地域や関係機関と連携した学校安全体制づくりを推進します。

### 【主な取組】

- 校内パトロールや入念な準備運動等のセーフコミュニティの取組、危険予知トレーニング（KYT）教材等の活用を推進し、児童生徒自らが安全について、危険を予測・回避する等の意思決定や行動選択ができるような実効性のある学習指導の工夫・充実を図り、学校の安全対策を推進します。
- 事故対応マニュアルに基づき、児童生徒及び教職員の避難や心肺蘇生法等の対応訓練、通学路・遊具施設・設備等の安全点検の充実を図ります。
- 通学路交通安全プログラムに基づいた通学路の合同点検の実施、地域の安心安全ネットワーク会議と連携した積極的な街頭補導やパトロール等を実施し、地域や関係機関との協力体制の更なる充実を図ります。

### 【計画期間における成果指標】

指標名	指標の概要、算式等	参考値	現況値（R2）	目標値（R8）
①小・中学生の校内でのけがの発生割合	日本スポーツ振興センターの申請件数	8.0% (R1)	7.4%	6.8%
②危険予知トレーニング（KYT）教材を活用した訓練実施校の割合	県学校安全活動調査	73.0% (R1)	74.0%	100%

#### ①の指標を選んだ理由

セーフコミュニティ「学校の安全」の考え方にに基づき、小・中学生のけがの約半数が学校内で発生していることから、事業の成果を表す指標として、小・中学生の校内でのけがの発生割合を設定した。

#### ②の指標を選んだ理由

児童生徒自らが危険を予測・回避する等の意思決定や行動選択ができるような実効性のある学習指導の工夫・充実を図ることが必要であり、KYT教材の活用を推進していることから、事業の成果を表す指標として、KYT教材を活用した訓練実施校の割合を設定した。

### 【セーフコミュニティの取組の様子】

けが防止に向けた廊下の清掃・点検



危険箇所を知らせるポスター掲示



### 【現状と課題】

- 近年、大型台風や集中豪雨等の自然災害が毎年のように発生し、人命や生活、社会経済へ甚大な被害をもたらしており、これまで経験したことのない災害が発生する時代へと変化する中、児童生徒の発達段階に応じて危険を予見し、自らの安全を確保し、被害を軽減する防災・減災教育の必要性が高まっています。
- 土砂災害、桜島の大噴火、鹿児島湾直下型地震への対応など、本市の特性に応じた防災教育が求められています。
- 災害時には、学校と保護者間で電話・携帯電話・メール等の通信手段が利用できなくなることを考え、それ以外の連絡方法等をあらかじめ定めておくことが必要となっています。

### 【これからの施策の方向性】

- 学校では、危機管理・学校防災マニュアルを作成し、自校を取り巻く防災安全上の課題やその対策を検証するとともに、全国各地において発生する様々な災害等を踏まえ、地域や関係団体と連携した見直し・改善を図り、防災対策の推進に努めます。
- 本市独自の防災ノートを活用し具体的な場面に即して考えさせる活動や体験的な活動を関連させながら児童生徒等の危険予測・回避能力を高める防災教育を推進し、自分の命は自分自身で守るため、主体的に行動する態度を育成します。
- 避難訓練において、児童生徒が危険な状況を適切に判断し、回避するために最善を尽くそうとする主体的な行動、自らが進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができる児童生徒の育成を図ります。

### 【主な取組】

- 土砂災害警戒・洪水浸水想定区域など、学校や地域の実情を踏まえた危機管理・学校防災マニュアルの作成、避難訓練等での活用を指導します。
- 防災ノートの効果的な活用や火山防災教育推進事業に基づく専門家派遣授業の実施など、実効性のある学習指導の工夫・充実を図ります。
- 市地域防災計画を踏まえ、関係機関と連携した教職員の研修会の充実を図ります。

### 【計画期間における成果指標】

指標名	指標の概要、算式等	参考値	現況値（R2）	目標値（R8）
①災害時に児童生徒の避難場所及び保護者への引き渡し等のルールを定めている学校の割合	学校における安全に関する実態調査（新規）	—	—	100%
②地域と連携して避難訓練を実施した小・中学校の割合	学校安全活動状況調査	60.8% (R1)	62.5%	70.0%

#### ①の指標を選んだ理由

土砂災害、桜島の大噴火などの災害時に、学校と保護者間で電話、携帯電話、メールなどの通信手段が利用できなくなることを想定し、それ以外の連絡方法等をあらかじめ定めておくことが必要であることから、事業の成果を表す指標として、災害時に児童生徒の避難場所及び保護者への引き渡し等のルールを定めている学校の割合を設定した。

#### ②の指標を選んだ理由

地域や関係機関と連携した避難体制を整備し、学校や地域の実情を踏まえた避難訓練の実施が求められていることから、事業の成果を表す指標として、地域と連携して避難訓練を実施した小・中学校の割合を設定した。

### 【防災に関する出前授業の様子】

